

高橋誠氏 KDDI 取締役執行役員常務コンシューマ商品統括本部長

エンターテインメントにも強いauに

auは音楽やスポーツなどエンターテインメント分野を強化した端末やサービスを特徴とする。高橋誠氏は「まだ十分ではない。さらに深堀りしていきたい」と意気込みを語る。

この夏モデルは、電子ブックリーダーや太陽光充電、HDカム対応など世界初や国内初のラインナップが揃いました。

高橋 昨年初めまでは「KCP+」の不具合による開発の遅れなどに苦しんでいましたが、おかげさまで夏モデルは「端末がよくなった」と好評です。先日は「iida」という新ブランドも立ち上げました。

ただ、端末保有期間の長期化などにより市場があまり動かなくなってきた

います。そうした中で、新たな市場として「WiMAX」「オープンOS」「モジュール」の3つに注目しています。

まず、WiMAXについてはグループ内のUQコミュニケーションズが7月1日から本サービスを開始します。自社が表に出るのではなく、家電量販店やメーカーなどがMVNOとして提供するオープンなビジネスモデルは非常に面白いと思います。

これに対し、auではRev.Aの後にマルチキャリアRev.Aを入れ、2012

年にLTEを開始するというシナリオができています。「グループ内でWiMAXとLTEの両方を展開することは二重投資になるのではないかと海外でも指摘されますが、社内では「WiMAXはエンベデッド等でのPC利用のデータ型サービスの提供、LTEは携帯電話市場に活用」と明確にすみ分けができています。LTEは速度とともにビット単価も重視しており、小野寺(正社長)もIRなどで、「LTEへの投資はビット単価を下げるのも大きな目的であり、スピードだけを求めるためではない」と明言しています。

このように、PCベースのオープンモデルのWiMAX市場と、従来の携帯電話市場の両方を攻めていく計画です。

オープンOSについては、NTTドコモからグーグルのAndroid OSを搭載した「HT-03A」が発売されました。

高橋 KDDIでも今年4月に「オープンプラットフォーム部」を新設し、auの3.5Gサービス「WIN」の立ち上げに関わったメンバーを集め、オープンOS型ビジネスモデルの構築やAndroid搭載端末の研究をしています。

Androidのよさは、さまざまなデバイスがプラットフォームになることです。例えばLISMOを携帯電話だけではなく、音楽プレイヤーやテレビでも使うことができる可能性がある点が大きいと思います。

